

令和6年度孤独・孤立対策担い手育成支援事業交付金 事業実施報告書

【事業内容】

<b>1. 事業実施の概要</b>
<p>本事業では、以下の3つの活動を行うことで、全国の孤独孤立の予防と解消につながる活動の促進を図った。</p> <p>① 孤独・孤立対策に取り組む活動の創業・伴走支援 複数の応募から5団体を選出し、居場所づくりに寄与する活動への創業・伴走支援を実施した。</p> <p>② オンライングループを活用したケーススタディと事例集の作成 孤独・孤立対策の活動に関する情報交換ができるオンライングループの運営及び、12団体の活動の詳細をまとめた事例集の作成。</p> <p>③ 全国の孤独・孤立対策に取り組む活動者の対面交流会 孤独・孤立対策を行う活動者同士が対面で出会い、情報交換を行うための対面交流会を実施した。</p>
<b>2. 具体的な取組内容</b>
<p>① 孤独・孤立対策に取り組む活動の創業・伴走支援 SNSを中心に、伴走支援の希望者を募集。14件の申し込みの中から、事務局の審査にて支援団体5団体を選出した。支援団体には、それぞれ社会課題解決に精通するメンターをつけ、半年間伴走支援を実施。団体の課題やアイデアの整理、今後活動を行っていくために必要な考え方などが身につくことを目指した。</p> <p>支援団体は、単にメンターから学ぶだけではなく、学んだことをオンライングループに投稿。孤独・孤立支援に重要な「発信」の力も鍛えつつ、ノウハウに関しても支援団体だけではなく、グループに登録している1700人のメンバーに共有することで伴走支援の効果の拡大を狙った。</p> <p>② オンライングループの運営と事例集の作成 Facebookのグループ機能を活用して運営する「全国居場所づくりネットワーク」には、現在全国各地から1700人を超える登録者がいる。このグループの運営を継続しつつ、グループの登録者の中から、より他団体に学びの多い団体12団体を選出。その団体の活動内容だけではなく、財源やこれまでの活動でうまくいったきっかけ、また失敗談や団体の弱みなどをまとめる事例集を作成した。</p>

<p>2. 具体的な取組内容（続き）</p>
<p>③ 対面交流会</p> <p>全国各地の活動者、活動希望者を対象に対面の合宿を実施。</p> <p>1) 講師2名による講演会とグループワークによる学びのシェア</p> <p>2) 交流会</p> <p>3) 日頃の悩みの共有と解決法の検討を行った。</p> <p>講演会では、孤独・孤立対策推進室 孤独・孤立対策推進参与の大西連氏より、孤独・孤立の現状について、株式会社HAPPY代表取締役社長の首藤義敬氏より介護付き多世代シェアハウス「ハッピーの家ろっけん」の取り組みについて講話いただいた。</p>
<p>3. 事業の目標に関する客観的な指標の達成状況及びその評価</p>
<p>① 孤独・孤立対策に取り組む活動の創業・伴走支援</p> <p>目標値：創業支援・伴走支援団体5団体。支援先決定後、各団体ごとに目標値を設定する。支援内容・分析内容の発信投稿は計10,000人へのリーチを目指す。</p> <p>参考資料：別紙資料1「伴走支援の様子」参照</p> <p>結果（客観的指標における数値）：<u>伴走支援を5団体実施</u>。各団体による発信のリーチ数、<u>合計10,314プレビュー</u>。</p> <p>結果（全体の成果と評価）：      &lt;全体&gt;5団体を支援し、それぞれ停滞期または立ち上げ期であった活動だが、メンターによる伴走を得て、新たに居場所を開設したり、今後継続のためのノウハウを学んだりした。結果、孤独・孤立に悩む人が通える居場所が増え、かつ団体が継続的に孤独・孤立対策が行うための基盤整備を行うことができた。</p> <p>* 団体ごとの成果については別紙資料参照</p>

### 3. 事業の目標に関する客観的な指標の達成状況及びその評価（続き）

#### ② オンライングループの運営とオンライン事例集の作成

目標値：オンラインの勉強会 4 回実施、延べ 250 人参加。グループ登録者数 300 人増加。事例集 10 団体。

結果：オンライン勉強会 3 回実施、延べ 210 人参加（実施回数△1 回、参加者数△40 人）。グループ登録者数 317 人増加（結果 1717 人）。事例集「僕らの孤独・孤立支援助け合いノート」12 団体分作成。

評価：オンライン事例集を作成するにあたり、よくある活動の概要のみの物ではなく、失敗談やその乗り越え方などをまとめたものを作成し、本質的に活動に役立つものを目指した。結果、質問内容の精査やまとめ方の工夫において想定以上に工数を要し、オンライン勉強会などの実施が予定よりも滞ってしまった。一方、事例集は活動者や活動希望者から「非常に実用的である」と高い評価を得ていて、SNS 上でも、公開 1 週間で合計約 10,000 プレビュー以上の閲覧を受けた。

参考資料：事例集「僕らの孤独・孤立支援助け合いノート」別紙資料 2 参照

#### ③ 対面交流会

目標値：参加者 50 名

結果：1 月 11 日、12 日に栃木県宇都宮市で実施。参加者 32 名。

参考資料：別紙資料 3 「対面交流会の様子」参照。

評価：全国各地より 32 名が参加されたが、目標には到達しなかった。日程のリリースは 2 ヶ月前にできたものの、宿泊型であることで、参加のハードルが高かったことが原因と考えられる。

一方、参加者からは「参加して良かった」「活動の相談相手がいなかったのも、やっと似た活動をしている人と繋がれた」「毎年やってほしい」などの声が聞かれ、高い満足度を得た。特に、前年度に行ったアンケートより、活動者自身の孤立も業界として大きな課題であることから、活動者同士がつながり、互いに悩みや解決案を共有できるつながりとして有力であると考えられる。